

あすみっ子・大椎っ子田んぼ2011 質問編

あすみが丘小学校および大椎小学校の田んぼにて、田作り指導をさせて頂きました、Y P Pの金谷と申します。今年も五年生のみなさんとの田作りが無事完了しましたことを感謝いたします。

田作りでは両校の五年生のみなさんに様々な事をお伝えさせて頂きましたが、その間、ファックスやメール等で色々なご質問を頂きました。いずれも非常に良い質問でした。帰農して六年目の若輩に分かる範囲ではありますが、精一杯お答えさせて頂きました。

【あすみが丘小学校の五年生より】

九月二十六日に村田川についてのご質問をいくつか頂きました(両校の田んぼは村田川の源流域にあります)。

「村田川を守る人はいるんですか？」

はい。まず第一に、村田川を管理している千葉県(千葉県庁)や、村田川が流れている千葉市や市原市の市役所のみなさんが、守ってくださっています。千葉県環境研究センターでも、村田川の水質の検査などをしてくださっています。

第二に、小山町をはじめ、村田川の水を使って田んぼで稲を育てている農家のみなさんも守ってくださっている事になります。田んぼは水を浄化し、たくさんの生き物のすみかになるところなので、村田川のまわりの自然も豊かになります。もし村田川の周囲の田んぼが全部なくなってしまうたら、村田川や、周囲の自然は荒れてしまうかもしれません。

第三に、「村田川の会」などの、市民のみなさんの団体があります。村田川のすぐそばに住んでいるみなさんならではのやり方で、がんばって守ってくださっているようです。

最後に、あすみっ子のみなさんご自身も、あすみっ子田んぼでの作業を通じて、村田川を守ってくださった事になります。あすみっ子田んぼは、村田川の源流の一つの水を使っています。あすみっ子田んぼは農家さん達の田んぼに比べれば小さいかもしれませんが、稲の他にもたくさんの生き物が育ちました。きれいな水がないと生きられない草や虫、小動物達もたくさん育ちました。みなさんのおかげです。どうもありがとうございます。

「村田川の名前の由来は？」

私ははっきりとは知らないのですが、おそらく、村田川の河口付近の村田町(千葉市中央区)が名前の由来ではないかと思います。よろしければ地図帳で探してみてくださいね。

これはとても良い質問です。物の名前には、深い意味がこめられている場合が多いと思うからです。田んぼの草や生き物でも、もし興味をお持ちになったら、まず名前の由来を調べてみると、おもしろい発見がありますよ。

「季節によって、村田川の水温は変わるんですか？」

私は実際に村田川の水温を計った事がないので、はっきりとは言えませんが、たぶん変わると思います。

なぜならば、季節によって小山の田んぼの水温が変わっているからです。それらの水が集まる村田川の水も、多少変わっているのではないかと思います。

ちなみに、小山の田んぼの水温は、夏にはぬるめのお風呂くらい(時には熱めのお風呂くらい!)の温かさで、冬には厚さセンチの氷が張るくらいの冷たさになります。田んぼの水はあまり動かないために夏と冬の温度差が大きくなるのですが、川の水は常に動き続けているので、田んぼほどは温度差が大きいのではないかと思います。

続いて十月二十一日には稲や田んぼについてのご質問を頂きました。

「あすみっ子田んぼで育てている稲の種類はなんですか？」

コシヒカリです。正確には「水稻(すいとう)農林100号(越南17号)コシヒカリ」と言います。お伝えするのを忘れてしまっておりました。ごめんなさい!

ちなみにコシヒカリのお父さんは、収量(収穫量)が多く、おいしく、成長が早いけれども病気に弱い「水稻農林1号(北陸4号)」、お母さんは収量は普通であるけれども病気に強い「水稻農林22号(近畿34号)」です。よって、その子供であるコシヒカリは、収量が多く、おいしく、病気にも少し強い稲になりました。ただ、背が高くなりすぎて、台風などで強い風が吹くとたおれやすいのが欠点です。

このように、稲は品種によって性質が大きく異なる場合があります。田んぼがある土地の土の質や気候にあった品種を選んで育てることが重要となります。コシヒカリは千葉県の田んぼに合っており、また、全国的に多く作られている品種で、他の地域のコシヒカリと比較しやすいため、あすみっ子田んぼで育てる稲として選ばれました。

「稲が育つのにどのくらいかかるんですか？」

これも稲の品種によるのですが、だいたい四ヶ月から七ヶ月の間です。

なお、あすみっ子田んぼでは四月十日に田んぼに苗代(なわしろ)を作って種をまきました。稲刈りが九月二十二日でしたので、五ヶ月半くらいかかった事になりますね。

早く育つ稲を早稲（わせ）、中くらいの速さで育つ稲を中稲（なかくて）、ゆっくり育つ稲を晩稲（おくて）と呼びます。水稻農林1号は早稲、水稻農林22号とコシヒカリは中稲です。

一般的に、日本の北の方で生まれた品種ほど早稲であることが多いです。北の方は稲が好きな蒸し暑い期間が短いからです。また、晩稲だと時間がかかって一見不利のように見えますが、その分、日光をたくさん浴びて育つので、収量が多くなる場合が多いです。南の方では蒸し暑い期間が長いので、晩稲も多く作られています。上でも書きましたように、その土地に合った品種を選んで育てる事が重要となります。

【大椎小学校の五年生より】

十一月八日に谷津田やYPPの活動についてのご質問を頂きました。

「YPPにはどのような人が来ますか？」

YPPの谷津田での活動にはいろいろな方がいらっしやいます。谷津田の動物や昆虫、植物が好きな人や、田作りが好きな人などいろいろですが、共通しているのは、みなさん自然が大好きであることです。

その中には、ふだん会社で働いてらっしゃるお父さん達もいらっしやいます。「田作りは大変だけど、こちよい」とおっしゃる方が多いです。

YPPには、小学校入学前の小さい子供達もよく遊びに来てくださいます。春の田植え前には田んぼの中で泥合戦をしたりします。YPPの活動は何才になっても参加大歓迎ですので、みなさんいつでもいらして下さいね。

「谷津田は環境にどのような影響を与えているのですか？」

これは人によってさまざまな考えがありますが、ここでは私の考えを書きますね。

まず谷津田とは、「谷」と「津」（水のこと。または水が集まる所のこと）と「田」がそろっている場所のことを言います。「谷」があるので、その底に水が集まりやすく、川ができます。その川や周囲の自然を活用して作った田んぼが谷津田です。

谷津田は谷の間にあります。ということは、山（または丘）にはさまれているということです。よって、高いところと低いところがあり、鳥などは高いところの木にとまって、えものを探したりしやすいようです。また、谷の形によって空気の流れが生じ、風が発生します。稲は、ほどよい風を受けた方が健康に育ちます。

また、谷津田をはさんでいる山または丘の上に入った雨は、長い年月をかけて地面の中を通り、とてもきれいになって谷底にしみだしてきます。「谷津田は巨大な浄化装置である」とも言えそうです。

谷津田には水があるので、カエルや魚など、水がないと生きられない生き物がたくさん集まってきます。それらの生きものを食べるに、ヘビや鳥などもっと大きな生き物達も集まってきます。そして生命活動が豊かになります。そこに田んぼを作ることによって、さらに色々な生き物が集まってきます。他の場所より田んぼの方が好きな生き物もいます。

生命活動が豊かということは、たくさんの命が生まれては死んでいるということです。それらの命のふんや死がい土をさらに豊かにし、稲や草、木など、さまざまな植物がたくさん健康に育ちます。植物は空気中の二酸化炭素をすって、酸素を出しますので、谷津田やその周辺では空気がきれいになります。

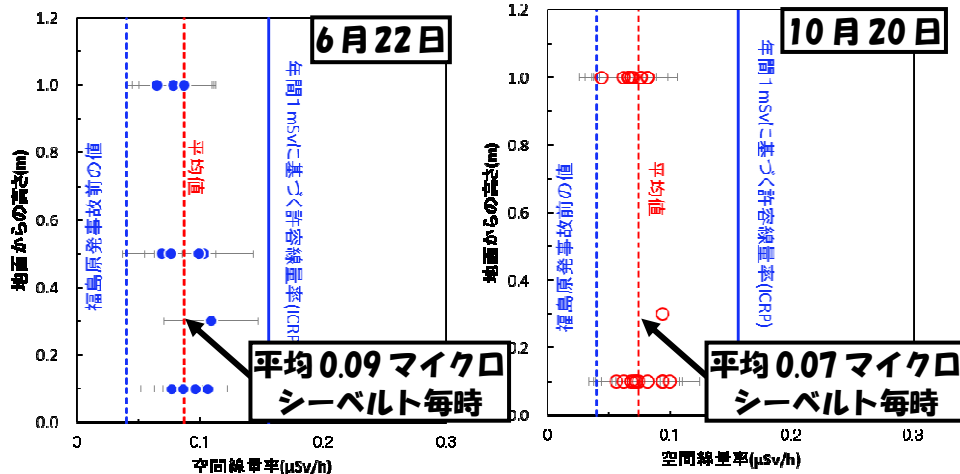
このように、谷津田は環境にさまざまな影響を与えています。千葉県は谷津田がとても多い所です。みんなで大切にしていきましょう。

この他にも様々なご質問を頂きました。口頭でのご質問もたくさん頂いたのですが、谷津田の自然や田んぼ、稲、農業などに対する関心が感じられ、とても嬉しかったです。まだまだ質問受け付け中です。お待ちしておりますよ。

小山の谷津田で放射線量再測定

6月に放射線量測定を行った小山の谷津田でその後の状態を調べるために、11月20日に再測定を実施しました。測定には前回と同じハンディータイプの簡易サーベイメーター（ガンマ線に反応）を用い、地上高1 m、10 cmで30秒計測を5回行い、平均値を取りました。

田んぼや畦、わき水の出る場所、アシ原、広場など、12地点で測定を行いました。いずれの地点でも0.04～0.10マイクロシーベルト毎時の範囲にあり（平均 0.07）、6月の計測時と比べると2割ほど低い値となっています。今回も行動を制限する必要のないレベルであることが確認できました。（稲富直彦）





里山たんけんレポート

第 142 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2011 年 11 月 6 日 (日) くもり・小雨

山の中の木の上からシュレーグルアオガエル複数の声が聞こえていました。春に聞ける声とちょっと違って聞こえました。この時期には今まで聞いたことはなかったように思えます。

先ずはひ字溝にいたヤマカガシを救出、ヒヨドリやモズの高鳴きが耳に入ってきます。声は小さいながら、アオジの小さな地鳴きがあちこちから聞こえてきました。谷津全体ではかなりの数のアオジが来ているように思われました。ホオジロの子チツ、チツツと言う声もいつもよりたくさん聞けました。

少なくなった昆虫に引き換えジョロウグモは大きくなって数も多く、生きものでは一番目立つ存在になっていました。目立つ存在と言えば雨で木々や葉が濡れていたこともあってカタツムリがたくさん出てきていました。中に螺高の高いニホンマイマイがいました。数少なく下大和田で 2 回目の出会いです。

スズメウリのキュウリの味、蓼食う虫も好き好きのホンタデの辛味を味わったり、アオツツラフジ、ムラサキシキブ、サンショウ、ノササゲなどの色づいた実を楽しみながら谷津を巡りました。

引き続きに参加した千葉高生物部の生徒さんの水質のパックテストを行い、午後からはメダカの調査も一緒に行いました。

メダカを捕獲、麻酔をかけて全長、体長、体高、体重を測りました。計測したメダカの総数は 75 匹に上りました。メダカは麻酔が解けた後田んぼに戻しました。年間を通して計測、推移を調査することです。

一緒に捕まえたフナやシマドジョウも計測しましたがメダカより大きいフナがメダカより早く麻酔にかかり、なかなか麻酔から覚めないので不思議でした。



ニホンマイマイ

(参加者 大人 3 名、高校生 1 名； 報告：網代春男)

第 127 回 下大和田 YPP「古代米の脱穀」

2011 年 11 月 13 日 (日) 晴れ

当初 12 日に予定していましたが、前日の雨でオダがけしていた稲が濡れてしまったことから、1 日遅れで行いました。

今回脱穀したのは、赤米と緑米です。最初に量の少ない赤米を片付けてから、今年もしっかりと育った緑米に取り掛かりました。しっかりと乾いたお米はサラサラと心地よい音を立てて米袋に流れていきます。時折、緑米に赤米が混じっていたり、ナガコガネグモの卵が付いていたりしてちょっと流れが止まることありましたが、脱穀機はとても順調でどんどん作業が進みます。子どもたちはオダから稲を外して運ぶ係をしっかりと務め、頼もしい力になってくれました。

たくさんあった緑米もどんどん進み、予定した時間ちょうどにすべて脱穀を終えることができました。

先に脱穀したコシヒカリや農林 1 号、黒米を含めて、翌週の 11 月 19 日に千葉市の農政センターの場所をお借りしてモミすりを行いました。これで、お米はすべて玄米になり、今年のコメ作り作業が終わりました。次は収穫祭での試食です。皆さん、お楽しみに

(参加者：大人 15 名、小学生 5 名、幼児 2 名；報告：高山邦明)



たくさんのお米袋の前に笑顔！（撮影：田中正彦）

第 71 回 小山町 YPP「古代米の稲刈り パート 1」

2011 年 11 月 3 日 (木・祝) くもり

第 72 回 小山町 YPP「古代米の稲刈り パート 2」

2011 年 11 月 20 日 (日) 晴れ

3 日は残ったコシヒカリと赤米の稲刈り、20 日は当初脱穀作業をする予定でしたが、稲刈りが遅れていることから、緑米を刈りました。今年は 11 月に入っても寒さを感じる日がほとんどなかったので、まだ緑米の茎が青々としています。そのおかげで稲刈りが遅れていてもまだしっかりと稲が立ってしてくれたので助かりました。20 日もとても暖かくて気温が 25 度近くになり、何とアブラゼミの鳴き声がすぐ近くの林から聞こえてきました。恐らく記録的な遅鳴きではないかと思えます。暖かさに誘われて間違えて羽化してしまったのでしょうか。

小山では地元の小学校 5 年生が毎年米づくりをしていることから、原発事故の影響を調べるために、6 月に続いて 20 日にも放射線量測定を行いました。結果はこの谷津田だよりの 2 ページに報告しましたとおり、6 月よりも計測値が少なくなり、安全なことが再確認できて安心しました。

少ない人数なのでなかなか稲刈りが進まず、YPP の活動日以外にも作業しましたが、最後の 1 枚の田んぼの稲刈りは 12 月に持ち越しとなってしまいました。それでも足踏みの機械と唐箕(とうみ)を使って脱穀も並行してやっていますので、何とか年内には作業を終わらせることができそうです。

(参加者：3 日 大人 8 名、小学生 3 名、幼児 1 名、20 日 大人 6 名；報告：高山邦明)

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 11月20日 気温が25度に近い暖かさにアブラゼミが鳴く。ルリビタキの地鳴きを聞く(高山)。
11月27日 ツグミの声を始めて聞く。斜面林の縁でヤクシソウが咲く。田んぼにはアキアカネ、ナツアカネの姿(高山)。
11月28日 落ち穂から芽が出た畦上の苗代(先月号参照)はまだ元気。今秋はよほど暖かい模様(金谷)。

下大和田

- 11月3日 アブラゼミが南北の斜面林で一匹ずつ鳴いていた。季節を感じるセンサーがどうかになっているのか(網代)。
11月13日 暖かさにシュレーゲルアオガエルが鳴き、オニヤンマが羽化しようと水路から上がっていた(田中・高山)。
11月6日 観察会の日に螺高の高いニホンマイマイに出会いました(網代)。
11月18日 田んぼの裏作の裸麦の播種完了。皮麦は11/15に完了(金谷)。
11月22日 百舌の一人オペラを今秋初鑑賞。とても素敵だった(金谷)。
11月25日 沼の所の鉄塔まで巡った。アオジは姿や声にたくさん出会い順調に渡ってきているようだ。他の冬鳥はまだ見られなかった。ツマグロヒョウモンみみが広場にいた。生息域を北に広げているチョウだが暖冬を実感した。(網代)。
11月26日 晩生の畦豆の収穫完了。今秋は暖かだったので、だいぶ遅くなっている(金谷)。
11月29日 先週から今週にかけて、ようやく紅葉が進んできた(金谷)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。

・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。

・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼第128回 下大和田 YPP「収穫祭」・第129回「どんど焼きと昔あそび」

いよいよお楽しみの収穫祭です。みんなで作ったお米を炊いたり、お餅にしたりして試食します。今年一年をふりかえりながらお腹いっぱいいただきましょう。

そして、新年最初のイベントは恒例のどんど焼きと昔あそびです。新しい年の抱負を語りながら楽しみましょう。

日時: 収穫祭 2011年12月17日(土) 10:00~14:00

どんど焼き 2012年 1月8日(日) 10:00~14:00 いずれも小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、収穫祭ではお皿・お椀・はし、どんど焼きの時は、昔あそびの道具、どんど焼きで燃やしたいものなど。

参加費: 収穫祭 小学生以上一律500円(食材費を含む特別料金です)、小学生未満無料

どんど焼き ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

▼第144回 下大和田 1月の谷津田観察会とごみ拾い

冬鳥との出会いに期待して新春の谷津田を巡ります。どんど焼きと同時開催です。

日時: 2012年1月8日(日) 観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(下大和田 YPP に同じ)

集合: 下大和田 YPP に同じ

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

▼第73回 小山町 YPP「古代米の脱穀」

古代米の脱穀をします。今年は作業がちょっと遅れてしまいましたが、何とか終わらせたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

日時: 2011年12月10日(土) 10:00~12:30 *小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

編集後記 今年の11月の暖かさは異常でした。アブラゼミが鳴いたり、オニヤンマが羽化しようとしたり、シュレーゲルアオガエルの声がかたり・・・ おかげで小山では稲刈りが遅れても古代米が倒れることなく青々としてくれていたのには助かりましたが、やはりちゃんと寒さが来て欲しいものです。(高山 邦明)